

3 年 次

開 講 科 目

3年次開講科目講師教科書一覧表

(52期生)

分野	教育内容 科目区分	科目名	教科内容	講師名	教本	単位数	時間	ページ
統合分野	看護の統合と実践	看護管理	看護管理	田原 しのぶ	系統看護学講座 看護管理	1	16	46
		看護研究Ⅱ	事例研究発表	田中 双美	看護理論 看護理論20の理解と実践への応用 系統看護学講座 別巻 看護研究	1	30	47
		災害看護	災害時の看護の役割と技術	荻本 初音	系統看護学講座 災害看護学 国際看護学	1	30	48
		看護の統合と実践	臨地場面での総合的な技術の習得と対応	板澤 瑠美	新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 医療安全ワークブック	1	30	49
	臨地実習	地域・在宅看護論実習				2	90	50
		小児看護学実習				2	90	51
		母性看護学実習				2	90	52
		精神看護学実習				2	90	53

授業科目名	看護管理	担当講師名	田原 しのぶ	実務経験の有無	有
開講時期	3年次 前期・後期	単位及び時間数	1単位 16 時間	実務経験の内容 看護師として病院に勤務	
授業の目標 及び概要	・看護管理について基礎的な理解を深め、医療チーム及び多職種との連携ができる ・看護実践におけるマネジメントについて考えることができる ・良質な医療及び看護について追求する姿勢を育てる				
回	授業内容		キーワード	備 考	
1	第1章 看護とマネジメント A 看護管理学とは ○看護サービスのマネジメント		看護マネジメントの変遷	講義	
2	第2章 看護ケアのマネジメント A看護ケアのマネジメントのプロセス B患者の権利の尊重		ナイチンゲール インフォームドコンセント、 意思決定の支援		
3	C安全管理 ○医療事故対策 Dチーム医療 ○多職種との連携・協働		安全管理のシステム、安全文化 院内感染対策、災害の予防と対策 コミュニケーション	講義・ 課題 レポート	
4	E看護業務の実際(日常業務のマネジメント)		看護業務、看護基準と看護手順、 クリニカルパス、情報の活用	※渡邊 看護部長	
5	第3章 看護職のキャリアマネジメント Aキャリア形成		キャリアラダー、新人看護職員研修 ストレスマネジメント	講義・課題 レポート	
6	第4章 看護サービスのマネジメント ○看護ケアの提供システム ○人材マネジメント ○人材フローのマネジメント 労働環境 ○施設・設備環境、物品、情報		組織化、看護単位、看護方式 キャリアディベロップメント、プリセプター、 インフロー、内部フロー 労働安全衛生、賃金、安全性の確保、快適性の 確保、機能性の確保	※渡邊 看護部長	
5	○組織におけるリスクマネジメント ○サービスの評価		事業継続計画（BCP）守秘義務、プライバシー、 質の評価クリニカルインディケーター、 病院機能評価		
7	第5章 マネジメントに必要な知識と技術 B組織とマネジメント Cリーダーシップとマネジメント D組織の調整		組織構造、PDCA サイクル 特性理論、行動理論、条件適合理論 集団規範、動機づけ、エンパワーメント	講義 GW	
8	第6章 看護を取り巻く諸制度 B 看護職の定義 ○看護師の法的責任 ○看護職の職業倫理○看護職の教育制度 C医療制度		保助看法 看護師の人材確保の促進 看護基礎教育課程 認定・専門看護師・特定 行為医療法、	講義	
評価方法		筆記試験 レポート			
教科書		系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 看護管理 (医学書院)			

授業科目名	看護研究Ⅱ	担当講師名	田中 双美	実務経験の有無	有	
開講時期	3年次 前期・後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間	実務経験の内容 看護師として病院に勤務		
授業の目標 及び概要		・これまでの看護実践を看護理論や研究成果と照合し、自己の看護観を明確にする。 ・看護事例の過程やその結果を通して、看護職者としてエビデンスに基づく実践を取り入れ、研究力を身につけることができる。				
回	授業内容		キーワード		備 考	
1	看護研究の基礎・実践、 ケースレポートの進め方		リサーチクエスチョン・文献レビュー 大理論・中範囲理論・実践理論・倫理的配 慮・研究計画書・ケースレポート		2 年次前期の 看護研究Ⅰ とつなげる	
2						
3	担当教員にレポート相談、 指導を受ける		1) 看護実践から学術知識や実践知識に基づき 検証 2) ケースレポートの作成 ※別紙「看護研究要綱」参照			
4						
5						
6						
7						
8	発表準備・設営・練習					
9	ケースレポート発表		1) 発表姿勢、声の大きさ・スピード ・発表時間の適正さ 2) 発表内容とスライドの内容の明確さ			
10						
11						
12	発表準備・練習					
13	ケースレポート発表		1) 発表姿勢、声の大きさ・スピード ・発表時間の適正さ 2) 発表内容とスライドの内容の明確さ			
14						
15						
評価方法		ケースレポート (取り組み姿勢・ケースレポート内容・発表姿勢など) ※別紙の評価表を参照				
教科書		看護理論 看護理論 21 の理解と実践への応用 (南江堂) 系統看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院)				

授業科目名	災害看護（国際看護）	担当講師名	薮本 初音	実務経験の有無	有
開講時期	3年次 前期	単位及び 時間数	1単位 30 時間	実務経験の内容 保健師として行政に勤務	
授業の目標 及び概要	■災害看護 ・ 災害が地域や人々の健康に及ぼす影響について学習し、災害看護の基本的知識や援助方法を学ぶ。 ・ 災害に関連する主な法律、体制を理解する。 ・ 災害時支援における多職種の活動と連携について学ぶ。 ■国際看護 ・ 国際的看護の基本を知る。 ・ 在日外国人の健康問題とその支援について考える。				
回	授業内容		キーワード		備 考
1	災害看護の歴史 災害医療と看護の実際（映像等視聴）				講義
2	災害医療の基礎知識 災害医療の体系的アプローチ		災害関連死（クラッシュ症候群、深部静脈血栓、孤独死 等） CSCATT		講義
3 4	災害支援と主な法律、体制 災害支援に関わる職種・組織とその連携		災害対策基本法、災害救助法、 災害拠点病院、DMAT、DPAT、 DHERT、EMIS		講義
5	災害への備え（外部講師：予定）		調整中（日程によってはこの前後の講義日順番変更あり）		講義
6	施設見学：阿倍野防災センター（予定）		調整中（日程によってはこの前後の講義日順番変更あり）		施設見学
7	災害各サイクルにおける主な健康障害と看護		避難行動要支援者名簿 START 法		講義
8	トリアージ演習 避難所疑似体験、非常食試食体験				演習
9	避難場所の違いによる看護 ・ 現場、避難所、救護所、在宅生活者の看護		二次健康障害の予防		講義
10 11 12	避難所における看護（GW と発表）				GW
13	健康を取り巻く世界情勢と国際看護				講義
14	日本で働く外国人の母国文化を知る		外部講師（調整中）		講義
15	国際協力のしくみ、国際救援と看護 災害看護・国際看護学における教育・研究		外部講師（調整中）		講義
評価方法		筆記試験			
教科書		系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 （医学書院）			

授業科目名		看護の統合と実践	担当講師名	板澤 瑠美	実務経験の有無	有
開講時期		3年次 前期・後期	単位及び 時間数	1単位 30 時間	実務経験の内容 看護師として病院で勤務	
授業の目標 及び概要		・医療における事故防止のための知識・技術を取得し、安全な看護を提供するための 判断力・実践力を高めることができる ・看護に関する修得した内容をより臨床実践に近い形で学習し、臨床に適応できるよう に知識と技術の統合を図り、看護の実践者として患者の看護を総合的に判断や対応 できる能力を養う				
回	授業内容		キーワード			備 考
1	多重課題とは		多重課題とは 多重課題のよくある場面について考える①			講義 及び 演習
2	多重課題とは		多重課題のよくある場面について考える②			
3	医療安全		アラーム・夜間帯の病院			
4	複数の患者への看護実践①		2名の患者の計画を考える 複数患者の行動計画 優先度を判断した立案 (ケアの優先度、順序性、時間管理)			
5						
6	多職種連携		多職種とはどのような職種があるのか それぞれの職種の役割、どのような連携が必要か 多職種連携における看護師の役割			
7						
8	複数の患者への看護実践②		【演習】 複数患者の対応（多重課題）を実践する			
9						
10			振り返り			
11	まとめ発表の準備		これまで学習したことを踏まえて、看護の ポイントを整理し学びを深める。シナリオの 作成			
12						
13	まとめ発表		作成したシナリオに基づき発表を行う			
14						
15	発表後の振り返り		発表を終えての評価、レポート			
評価方法		レポート、グループワークの発表				
教科書		新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全（メヂカルフレンド社） 医療安全ワークブック（医学書院）				

授業科目名	地域・在宅看護論実習	担当講師	石神朋子他	実務経験の有無	有
対象学生	3 年次	単位及び 時間数	2 単位 90 時間	実務経験の内容 保健師として行政に勤務	

【実習目的】

- 1. 地域で生活する対象を理解し、在宅療養を支援するために必要な基礎的能力を養う
- 2. 地域における保健医療福祉活動の実際を知り、関係機関、関連職種との連携と協働を通して看護職の役割を学ぶ

【実習目標】

- 1. 療養者の療養生活の実際と療養者の全体像を把握し、療養生活を支援するために必要な看護を考えることができる
- 2. 訪問看護の特性と訪問看護師の役割が説明できる
- 3. 地域での暮らしを支援するための制度や多職種連携の必要性、看護職の役割が理解できる

授業科目名	小児看護学実習	担当講師	田中 双美	実務経験の有無	有
対象学生	3 年次	単位及び時間数	2 単位 90 時間	実務経験の内容 看護師として病院に勤務	

【実習目的】

成長・発達段階にある子どもを理解し、あらゆる健康レベルにある子どもとその家族に対して適切な看護を実践する基礎的能力を養う

【実習目標】

1. 子どもの各成長・発達段階の特徴を理解し、対象に応じた日常生活援助ができる
2. 健康障害や入院が子どもとその家族に及ぼす影響を踏まえて、必要な援助を実践することができる
3. 地域社会における子育て支援の役割を学ぶことができる

〔保育園実習〕

1. 乳児期・幼児期の子どもと関わり、健康な子どもの成長・発達を理解する
2. 子どもの成長・発達段階に応じた日常生活援助ができる
3. 保育園における子どもの健康と安全を守るための環境と支援について理解できる

〔病院実習〕

1. 子どもの成長・発達段階の特徴を述べることができる
2. 健康障害や入院が子どもとその家族に及ぼす影響を踏まえて、必要な援助を実践することができる
3. 小児看護における看護師の役割を述べることができる

授業科目名	母性看護学実習	担当講師	洲瀬 佳子	実務経験の有無	有
対象学生	3 年次	単位及び時間数	2 単位 90 時間	実務経験の内容 助産師として病院に勤務	

【実習目的】

1. 周産期（妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期）にある対象の特性を理解し、母性看護に必要な基礎的実践能力を養う
2. 生命誕生の過程に参加し、生命の尊厳への認識を深めることができる

【実習目標】

1. 妊娠期の対象の特性を理解し、妊娠経過のアセスメントと必要な看護を考えることができる
2. 分娩期の対象の特性と分娩経過に合わせて必要な看護を考えることができる
3. 産褥期および新生児期の特性と健康増進に向けて必要な援助を実践することができる
4. 生命誕生の過程に参加し、生命の尊厳への認識を深めることができる

授業科目名	精神看護学実習	担当講師	東浦 龍至	実務経験の有無	有
対象学生	3 年次	単位及び時間数	2 単位 90 時間	実務経験の内容 看護師として病院に勤務	

【実習目的】

精神に障害のある対象および家族を理解し、個別的な看護が実践できる基礎的能力と対象を尊重する態度を養う

【実習目標】

1. 精神に障害をもつ対象を理解することができる
2. 対象のセルフケア能力に応じた日常生活行動への援助を計画・実施・評価できる
3. 治療的な関わりを意識し、患者－看護師関係を形成できる
4. 対象への関わりを通して、自己の感情や行動の傾向に気づき、自己洞察できる
5. 対象の社会復帰に向けてのサポートシステムについて考えることができる